

事前の PCR 検査で院内感染・施設内感染を防ごう!

衆議院議員宮川さんが ZOOM 会議を企画、新型コロナウイルス感染症の現状を話し合いました (2020 年 4 月 12 日)。

東庄町にある「北総育成園」での施設内感染の状況について船橋市の指定管理者「さざんか会」の理事泉さんよりお話がありました。3/10 に職員の発熱が発症された。3/27・28 に 50 名以上発熱、そして 4 月 5 日には入所者 50 名に、職員 36 名と 11 名の職員家族の感染が明らかに。今も入所している方もいるので食事 (弁当) を搬入、朝食は非常食で。さざんか会一法人ではこのような状態に対応しきれないので人的支援をお願いしたいとの要望が出されました。



入所者の病院への入院は困難なので施設内で療養とのこと。支援を必要とする障害者施設での感染症対策と福祉支援の難しさを感じました。

八千代市の放課後デイサービス (障碍児) の吉野さんからは、3 密の状況で感染の危険があるので自宅待機をお願いしているとのこと。でも子どもをどう預かり支援するのか、最後の砦なのに対応できなくなっているこの現状をどう解決するのかと重要な課題が出されました。

北総育成園では最初の段階、事前に職員の PCR 検査をしたのかとの質問に対し泉さんは「事前にはやっていない。感染が明らかになってから、クラスター状況になっているため全員の PCR 検査を始めた」と。

宮川さんに福祉施設への PCR 検査をどうやっているのか問うと、厚労省からの回答を送ってくれました。“福祉施設の職員の PCR 検査は対象者が多すぎて検査しきれないため症状が出ていない人を対象とするのは難しい” “ただし濃厚接触者の場合は症状が出ていなくても検査を受けることができる” とのこと。

この発熱・肺炎等とコロナウイルス感染者が明らかになってから、その濃厚接触者に PCR 検査をするという “クラスター潰し (日本モデル)” に固執する政府の姿勢は大いに問題です。東庄町の施設のあと多くの医療機関・福祉施設でのクラスターが発生していることから「PCR 検査を早くしろ」という声が上がっています。

院内感染を起こした慶応病院ではこの点を検証し来院する患者さんすべてに PCR 検査をしてチェックをしながら病院内に入れるようにしているのです。

事前に検査をすればその施設の安全性も分かり、入所者も安心して支援を受けられます。WHO が言うように「検査・検査・検査」です。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

***活動報告HP に掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。**